

議事録

会議名	第1回 玉名市まちなか未来デザイン協議会
日時	令和6年8月22日（木） 9：30～11：40
場所	玉名市民会館会議棟 第2会議室
出席者	別紙のとおり

<内容>

【資料確認等】

（事務局）

事前配布 ①次第 ②資料（資料1～8） ③まちなかグランドデザイン原案（たたき台）
当日配布 「玉名市まちなか未来プロジェクト模式図（案） ※グランドデザイン策定後
進行について：会長選出により、会長が決まるまで事務局が進める。

【1 開会】

（司会）

ただいまから第1回玉名市まちなか未来デザイン協議会を開会いたします。

【2 委嘱状交付】

（司会）

会議次第2の委嘱状交付を行います。時間の関係で、名簿番号一番の委員の方に、代表で委嘱状を交付させていただきます。熊本県立大学教授 柴田祐様、前の方へお進みください。本日は藏原市長が公務で不在のため、村上副市長が委嘱状の交付を行います。

～（委嘱状交付）～

【3 市長挨拶】（代理：村上副市長）

（司会）

それでは、会議の開催にあたり、村上副市長より一言ご挨拶させていただきます。

（副市長）

皆さん、おはようございます。玉名市副市長の村上でございます。今日は、藏原市長が出席して、皆様方に委嘱状交付、そしてご挨拶を申し上げなければなりませんが、東京に出張しており、どうしても出席できませんので、代わりましてご挨拶をさせていただきます。

藏原市長が東京に行かれる前に話をしたのですが、この玉名市まちなか未来デザイン協議会は、市長が先頭に立って、本当に力を入れて覚悟を持ってやる事業であります。そういった、今までの過程や今後の計画など、しっかりと説明しながら、20年後の計画を持って、やっていきたいとの思いを、ぜひ私の方から皆様方にお伝えください。ということでございました。そういう思いを含めた市長からのメッセージを預かってきておりますので、代読をさせていただきます。

「本日は、委員の皆様方におかれましては、大変お忙しい中にご出席を賜り、心から御礼申し上げますとともに、協議会の委員を快くお引き受けいただき、深く感謝を申し上げます。

本市は、熊本県の北部に位置し、阿蘇外輪山を源流とする菊池川の恵みを受け、小岱山と金峰山系の山々、そして、有明海を臨み、恵まれた自然の中に息づく歴史と、伝統文化を伝える田園都市であり、平成１７年に１市３町が合併し、本年で１９年を迎えます。

その間、新玉名駅の開業や玉名バイパスの全線開通。新庁舎の開庁、市民会館の建設など、まちのインフラや施設整備を進めてきましたが、現在はデジタル化やグリーン化など、都市を取り巻く環境も大きく変わってきております。一方、人口減少や超高齢化社会に加え、高度経済成長期に建設された公共施設の老朽化など、行政機関をこれまで通りに維持をしていくことが困難になる中、課題に対応した組織体制や都市づくりを進め、最適化を行い、持続可能な都市にしていかなければなりません。そのため本市では、この課題解消に繋がる新たな施策として、昨年からまちなか未来プロジェクトを始動し、約２０年後の将来像を市民の皆様とともに、官民連携で描き、持続可能なまちづくりを実施する試みを始めたところでございます。

さて、本日ご報告する事項は、玉名市まちなか未来プロジェクトの概要と、進捗状況についてであります。本年４月末に、まちなかランドデザイン原案をプレスリリースし、６月には広報たまなで、市民の皆様にご公表したところでありますけれども、これからこの原案をもとに、協議会委員の皆様において、それぞれの立場から、忌憚のないご意見をいただきながら、まちなかランドデザインの策定を進めて参りたいと考えております。今後も、引き続き、皆様方のご協力を賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

令和６年８月２２日、玉名市長藏原 隆浩 代読」

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【４ まちなか未来デザイン協議会委員について】

〔（１）委員紹介〕

（司会）

委員紹介につきましては、お手元にお配りしております資料１の名簿をもって委員紹介に代えさせていただきます。委員の皆様におかれましては、これからそれぞれの立場でご意見やご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

〔条例・規則について〕

では、次に、会議次第（２）玉名市附属機関の設置等に関する条例、会議次第（３）玉名市まちなか未来デザイン協議会の組織及び運営に関する規則について説明いたします。

委員会につきましては、市中心エリアの公共施設を含め、玉名駅や駅周辺の再整備、旧庁舎跡地や旧中央病院跡地検討、各商店街の活性化といった、中心市街地のエリア一帯の約２０年後の姿、将来の構想を描いて、市民の皆様との官民連携によって、にぎわいのまちづくりを進めるまちなか未来プロジェクトの構想、計画などを審査及び審議を行うものでございます。また、従来通りの計画を立て、１期５年で終わるものではなく、構想策定後も官民で役割を分担

して、約20年後の姿を実現するため、計画が適切に実行されているのか検証しながら、長期的に運営を行っていただきます。

さらに社会のニーズや市民のニーズをとらえながら、計画を見直し、バージョンアップを図っていく役割を持っており、市民や行政にとって大切な機関でございます。今後、本条例や規則に基づき運営を行って参りますので、委員の皆様におかれましては、よろしくお願いを申し上げます。

所掌事項で（2）都市再生推進法人について記載をしております。この都市再生推進法人とは、都市再生特別措置法に基づき、地域のまちづくりを担う法人として、まちづくりの新たな担い手として、行政の補完的機能になりうる団体を市町村が指定するものでございます。その業務の範囲や指定の要件、また全国の指定状況を添付しておりますので、後程ご覧いただきたいと思います。

〔会長・副会長選任〕

では次に会議次第（4）の会長及び副会長の選出に移ります。

会長及び副会長の選出につきましては、規則第2条の規定に基づきまして、選出いたします。自薦、他薦を問いませんので、どなたございませんか。

特にないようでしたら、事務局よりご提案を申し上げてよろしいでしょうか。

～拍手多数：承認～

では、会長は、玉名市都市計画審議会において会長を務められ、都市計画行政をはじめとする玉名市のまちづくりに関して大変ご尽力されてございます熊本県立大学環境共生学部の柴田教授を、副会長は、九州看護福祉大学看護福祉学部の中野教授をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。よろしければ拍手をもってご承認をお願いいたします。

～拍手多数：承認～

ありがとうございました。それでは柴田会長、中野委員副会長におかれましては、お席の移動をお願いいたします。

〔会長・副会長 あいさつ〕

それでは承認されました。柴田会長から一言ご挨拶をお願いいたします。

（柴田会長）

皆さん、おはようございます。ただいま、会長に選出していただきました熊本県立大学柴田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

市に都市計画審議会というものがありまして、そこでずっと都市計画についてご助言をさせていただいているため、今回の協議会も参加させていただくことになりました。

ご記憶がある方もいらっしゃるかと思いますが、15年ほど前に「中心市街地活性化」というものが話題となって、たぶん玉名でも中心市街地活性化協議会というものが作られ、今回と正直似たような形で、中心市街地をどうやったら活性化できるのかというような議論や様々な取組をされてきたと思います。

今回、同じ協議会で、しかも「まちなか」。ちょっと言葉が変わっただけじゃないかという印象を持たれた方も、もしかしたらいらっしゃるかもしれませんが、後ほど事務局から説明がありますとおり、全く違うことだと思っていただけたらいいと思います。

目指すところはもちろん重なっていますが、より具体化、よりもっと実働を伴って、市民の方と一緒に、本当に中心（まちなか）をより良いまちなかにしていこうという取組を進めていく上で、この協議会の場というものがあります。先ほどの名簿をご覧いただけたらわかると思いますが、様々な分野の方にお集まりいただいております。ですので、総合的に、様々な観点から玉名のまちなかを、どうやって元気にするのか。もちろん玉名はまちなかだけでなく、周辺に非常に豊かな田園があります。やっぱりまちが元気であってこそ周辺も元気になるということは当然ありますし、そういった観点、全市的な観点からも、皆様のご意見をいただければと思います。市のサポートをさせていただきたいと思いますのでどうぞよろしくお願いします。

（司会）

柴田会長、ありがとうございます。では、中野副会長からも一言お願いをいたします。

（中野副会長）

皆様おはようございます。九州看護福祉大学の中野と申します。

私は専門が医療・福祉分野であります。その中で、環境適応という概念がございまして、入院されている患者さんとか、そういう方々も環境に左右されて良くなったり悪くなったりする、という考え方です。

まちづくりにおきましても、元気な方もいればそうでない方もいる。あるいは、生活している方とか、働いている方という見方もできるかもしれませんし、観光に来られている方もいらっしゃると思います。そういったいろんな方々が、より良い活動や行動を促進させるようなまちづくり、「まちなかプラットフォーム」の策定に繋がるように、微力ではありますが、貢献できればと考えておりますので、皆様、お力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

（司会）

中野副会長、誠にありがとうございます。今回選出された柴田会長、中野副会長のもと、事務局としてもより緊密な連携を図り、協議会の活動を推進して参りますので、委員の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

【報 告】

〔まちなか未来プロジェクトについて〕

（事務局）

それでは続きまして、会議次第5の報告事項に入りたいと思います。これより先は柴田会長に議長をお願いし、議事進行を進めていただきたいと思います。柴田会長よろしくお願いいたします。

（議長）

それでは早速議事を進めて参りたいと思います。まず「報告」ということで、これまでの玉名のまちなか未来プロジェクトの概要や進捗状況について、ご報告を事務局からお願いいたします。

(事務局)

おはようございます。玉名市都市整備課の植田と申します。プロジェクトの担当させていただきます。私の方から、会議次第の①のプロジェクトについてということで、プロジェクトの概要をご説明したいと思います。

まず、プロジェクトについてですが、全国的に抱えている課題点と同様に、玉名市でも、人口減少や、若者の転出、空き店舗の増加、地価の下落などが続いている現状でございます。まちなかの魅力やにぎわいが低下しているというようなことが課題点として挙げられております。目標といたしまして、にぎわいのあるまちづくりとして、まちなかへの人口集積や持続可能な社会の推進などを行うために、令和5年から、玉名市では「玉名市まちなか未来プロジェクト」が発足しております。

プロジェクトを推進するにあたり、庁内で横断的に考える組織として、プロジェクトチームを設立し、主要6課が集まる事務局、さらに庁内の関係20課で構成されたプロジェクトチームを構成しております。さらに、総務部長、企画経営部長、産業経済部長、建設部長の4部長とともに、事務局の6課の課長を連ねました幹事会を設立しております。こちらの3つの組織でプロジェクトチームは構成されております。

スケジュールといたしましては、昨年度、プロジェクトチームを設立し、今年から市民の皆様と対話するために、その題材・基礎となるまちなかランドデザイン原案というものを作成いたしました。今年度よりまちなかプラットフォームというものを設立いたしまして、本格的に官民連携によるまちづくりをスタートしております。

今後、ワークショップや各種協議会、分科会、検討会などを設立し、まちなかの未来を描くまちなかランドデザインの本年度中の策定を目指しております。

さらに、来年以降は、実際にそれを実行するためのアクションプランや優先順位などを決めるものを作成いたしまして、より計画的に、実効性のあるプロジェクトとして推進を目指しております。

昨年度の職員による活動を少し紹介させていただきます。昨年度のチームの目標といたしまして、3つの目標を掲げております。1つは、ランドデザインの構築に向けた職員の意識向上ということで、勉強会やワークショップなどを開催しております。これに続きまして、ランドデザイン原案（たたき台）を作成しております。

次に、まちなかプラットフォームの構築に向けた準備、さらに、公的不動産の適正配置、利活用の検討について進めさせていただいております。これらの検討結果につきましては、ランドデザインたたき台に掲載をさせていただいています。

昨年度のチームの活動としましては計20回。チーム会議は9回、視察研修や、E－b i k eを活用した体験会などを開催しております。計77名が参加し、延べ人数といたしましては494名が参加しております。

そのような中で作成いたしましたのが、皆様のお手元の方でございます「まちなかランドデザイン原案（たたき台）」です。こちらにつきましては、民間の皆様と話をしたり、一緒に考えるときに、何かしらの指標があった方が、1つの目標に向かって、考えを絞っていけるのではないかとということで、まず行政の方で、ランドデザインのたたき台というものを作成しました。今年度はこちらに基づいて、民間の皆様とお話をより深めていきたいと思っております。

たたき台ですけれども、2種類作成しております。

1つが冊子版という形で、こちらが原案の詳細版になっております。こちらには、作成の背景にあるプロジェクトの組織体系から、玉名市の現状、まちなかが目指すまちづくりや、エリアの設定の仕方やエリアごとの将来像など、検討した結果をより詳細に記した資料として作っております。

また、それらの裏付け資料として参考資料編を作成しております。こちらには、実際にチームで行ったワークショップの結果や、そこで話し合われた内容についてより詳細に記しております。お話をする際に、「行政の中ではこういう話が出ております。皆様、この題材について一緒に考えてください。」という内容を示すものとして作成しております。

次に、A3版は原案の概要版となっております。こちらについては、従来の計画書と違い、市民の皆様により見やすく、親しみやすい作りとして作成をいたしております。こちらの色や形につきましては、玉名市の花である肥後しょうぶをイメージしております。

掲載している内容につきましても、よりわかりやすいようにキャッチコピーや、玉名市が目指すコンセプト。また裏面には、玉名市のまちなかを6つのエリアに分けて検討をいたしておりますので、そちらについての詳細を書かせていただいているところでございます。こちらのたたき台の概要について、少し詳しくご説明を差し上げたいと思います。

まず1ページ目、最初にWAKU×ワク×湧くがという言葉は、私たちが考えました、玉名市のまちづくりのキャッチコピーになっております。玉名市といえば玉名温泉が非常に有名ですけれども、この温泉がわき上がるように、玉名にワクワクが湧き上がるような活動であったり、皆さんの繋がりができてくればという想いを込めて、こちらのキャッチコピーをつけさせていただいております。

次に、まちなかのターゲットを「玉名の未来を担う人」としております。子どもや、これからの将来を担う若者、さらに年齢を問わず玉名をどんどん良くしていこう、創り出していこうという方がたくさんいらっしゃると思います。そういう皆様にターゲットとして、玉名市では今後政策を進めていきたい。そういう気持ちで、こちらのターゲットを決めさせていただいております。

また併せまして、まちづくりの4つのコンセプトとして、「ここちよさの創出」「ワクワクの創出」「かたる場の創出」「やりがいの創出」の4つを掲げております。

ここちよさとは、玉名市に住んでいてよかったな、ここに住み続けたいな。そういう気持ちを創出するような取り組みだと思っております。

ワクワクというのは、玉名にいて楽しみを覚えていただきたい。そのような取組です。

かたる場とは皆さんの交流ですね。「かたる」という言葉は、話し合うという意味と、熊本弁で参加するという意味がございますけど、その二つを兼ねそろえた言葉といたしまして、みんなで語り合い参加していただく、そういう交流する場所や空間を作っていきたいという内容で書かせていただいております。

最後に、やりがいの創出として、若者たちが玉名で元気に働いて、生活整備基盤を作るということを踏まえたコンセプトとなっております。

こちら左側に曼荼羅図を作っておりますけれども、こちらも花しょうぶをイメージで作らせていただき、こちらで示しております。

次に裏面の方に、地図を掲載させていただいております。玉名の「まちなか区域」としてプロジェクトを推進するまちなかを掲載させていただいております。今回、6つのエリアに分けて検討をさせていただきました。

「文教エリア」につきましては、近隣に高校や大学、そして中学校などがあります。学びに付随する地域という形で、こちらの名前をつけさせていただいております。「玉名駅エリア」は在来線玉名駅を中心とするエリア。そこから高瀬の方に向かう「駅通りエリア」。古くからの商店が立ち並ぶ「高瀬エリア」。温泉を中心とした蛇ヶ谷公園を含む「温泉・蛇ヶ谷エリア」。最後に新幹線駅として整備されました「新玉名駅の周辺のエリア」として、これらを6つのエリアとして考えております。

最後の3ページに移らせていただきます。今、お話しました6つのエリアごとに検討を進めまして、キャッチコピーや、エリアに必要な機能、エリアの中核となる拠点とエリアごとの取り組みの例など、様々なことを検討して参りました。

その一部をこちらに掲載し、市民の皆様と一緒に考えていくにあたり、私たちの中でこういうふうなアイディアがでました、そういうことを話すための資料になっております。最後にスケジュールを掲載しております。

今後玉名市が、本プロジェクトで目指すまちづくりとしましては、「共に考え、共に動き、共に創り出す」をキーワードとした、市民と対話するまちづくりを行っていくということをメインに考えております。市民と対話するためのたたき台として、先ほどご説明いたしました、原案を作成しております。市民の皆様が自由に活発な意見を引き出す、市民が自ら参加し、考え、行動する。そういう場所を作っていきたいと考えております。

ずっと「まちなかプラットフォーム」という言葉が出ていましたが、そちらについて説明させていただきたいと思います。

原案のたたき台を作成いたしまして、今年度から玉名市まちなかプラットフォームを立ち上げて、官民が連携してまちなかのランドデザインを本年度、作成していきたいと思えます。まちなかのプラットフォームという聞きなれない言葉ですが、まちの将来像を描き、その実現に向けた取り組み、まちづくり活動や計画について協議、調整をする場と考えております。具体的な組織体系図がございます。このプラットフォームは、2部構成とさせていただいております。

まず、本日お集まりいただいております、玉名市まちなか未来デザイン協議会。こちらは、学識者や、金融関係者、観光関係者、公共交通団体、自治体、市民の方々にご参画いただいております。これからランドデザインの構築を目指して参りますけれども、その計画についての諮問や、次にお話しします市民の実働部隊であるまちなか魅力向上委員会の活動の支援、応援などを行っていただくということをメインで考えております。

次にまちなか魅力向上委員会、先日第1回目の会議を行ったところですが、実際にまちづくりを行っていくための実行部隊、という形で考えていただければいいと思います。現在、13名の方がこのプロジェクトにご参画いただいております。皆さんとお話をしながら、今後玉名市のまちなかをどのようにしていくか、また皆さんが、どういうふうなまちを作っていきたいか、こういう話を積み重ねながら、実際の活動に移して行って、まちのにぎわいを創り出す、そういう組織として作り上げていきたいと考えているところでございます。

最後にプロジェクトチームといたしまして、市内20課で組織しており、チームのメンバーが、先ほどお話しましたプラットフォーム、会議等に参加しながら、行政と市民が一緒になってまちづくりを行っていく、まちづくりの両輪として機能する。という形での組織体系を考えています。

グランドデザインの策定に向けた組織図を作成しております。先ほどお話しましたプラットフォーム、まちなかデザイン協議会とまちなか魅力向上委員会、こちらが中心となって、今後まちづくりを進めていきたいと思っております。我々行政が作成しているプロジェクトチーム、そして、まだ魅力向上委員会等に参加できていない市民団体の方や、まちづくりの団体の方々、様々な方々がいらっしゃると思いますけども、これらの方々が力を集結して、まず、まちなかのグランドデザインを作っていきたいと思っております。こちらにつきましては、より実効性のあるまちなかの未来を表した未来ビジョンといたしまして作成を目指しております。

次に、プロジェクト自体の模式図を掲載させていただいております。まちなか未来デザイン協議会、プロジェクトチーム、魅力向上委員会、この3者が連携して、まちづくりを行っていき、目指すべきまちなかの将来像を実現していく、そのような形で考えているところでございます。キーワードは、「共に考え、共に動き、共に創る」でございます。

スケジュール案についてのお話をさせていただきたいと思っております。本年度から官民連携に向けて本格的にスタートしておりますが、協議会は本日8月22日に開催させていただいております。また、第1回魅力向上委員会を8月5日に、開催しております。

今後、拡大ワークショップという形で9月と10月の2回開催を予定しております。こちらは、我々行政職員、まちなか魅力向上委員会、デザイン協議会の皆様、また、今玉名市で行っている出前ワークショップという、行政職員がまちの皆さんのフィールドに赴き、一緒に語り合う、そういうプロジェクトを進めております。この中でお話をいただいた皆様にも参加を募りまして、市民の皆様とのまちづくりについて考えていくというための拡大ワークショップを開催したいと考えております。

こちら9月10月に開催したのち、グランドデザインの素案を作成し、最終的にパブコメ等を経てグランドデザインの策定を今年度中に行っていくことを目指しております。

デザイン協議会の今年度の活動案についてのご説明をさせていただきます。まず第1回として協議会の設立を本日させていただいております。本日はプロジェクトの主旨説明やプラットフォームについて説明をさせていただきたいと思っております。次に、皆様にお集まりいただくのは、「まちなかのグランドデザイン」の素案を作成したところで考えております。その後、パブリックコメントとして、市民の皆さんにご提示をするという流れで考えているところでございます。

最後に、まちなかグランドデザインの諮問という形で、パブリックコメントを経て最終的にでき上がった案について、皆様で協議いただき最終的に諮問をさせていただきたいと考えているところでございます。

次に魅力向上委員会の活動については、今、進めている途中の段階になりますけれども、まず委員会の運営方針や進め方についてのこれから議論を進めていきたいと思っております。前回は、趣旨説明や集まっていたいただいた皆さんのまちづくりについての想いを、いろいろ語っていただいたところでございます。次回の日程等も決まりつつあるのですが、次は、

皆さん実際どのような活動していきたいか、そういう具体的な内容について、進めていきたいと考えております。このまちなか魅力向上委員会、こちらが本当にメインの実行部隊で動いていくことになります。行政職員も、今後チームの中で参加を募りながら、行政と民間が一緒になって作り上げていく。このプロジェクトの主旨に則った進め方をしていきたいと思っております。

次に、プロジェクトチームの活動につきましては、玉名市が抱えている公的施設や不動産の課題点が多々ございます。旧庁舎跡地、旧中央病院跡地、いろいろな跡地の活用問題もございますので、そちらについての検討をさらに進めていきたいと考えております。

併せまして、エリアプラットフォーム、民間組織との連携ということで、より民間の方々と対話をする機会や意識醸成も図っていききたいと考えています。

今、チームで動いていることですが、まず跡地活用の分科会を開催しております。こちらにつきましては、旧中央病院跡地と旧庁舎跡地、それとマルショク跡地。まずこちらの3つを題材として、どのような活用方法をしなければならないのか。特に市として、どうしても必要な施設等について検討しております。

今、旧庁舎跡地には文化センターという形で公民館、図書館の機能がございますし、また、保育所も今、仮園舎のままで存続しておりますので、そのような施設を将来の玉名市が、よりわくわくするような、皆様が楽しんで使っていただけるにはどうしたらいいかということ、まず、行政的な立場からより深掘りをしているという分科会を開催しています。

次に、まちなか魅力向上委員会への参加、市民との対話への参加をより深めていきたいと思っております。現在すでに6つのエリアごとに、担当職員の7名程度を配置は済ませておりますので、そのメンバーを、魅力向上委員会や市民との対話の場にどんどん参画していきながら、行政がより身近な存在として、皆さんと対話できる機会と考えていますので、そういう形で進めていきたいと考えているところでございます。

早口となりましたが、プロジェクトについて概要の説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。

(議長)

どうもありがとうございました。ただいま、まちなか未来プロジェクトについてのご説明をいただきました。かなりの情報量で、なかなか1度で理解が難しい面も多々あるかと思っておりますので、まずご自由にご質問、この言葉はどういう意味なのか、どういうことなのかとか。まずはご質問、どんな些細なことでも結構ですのでご意見いただければと思いますが。

(事務局)

事務局から1つ確認を行いたいと思っておりますけれどもよろしいでしょうか。

(議長：柴田会長)

はい。

(事務局)

今、説明しました資料4の16ページと、18ページ、21ページ、22ページです。玉名市まちなかプラットフォームに（仮称）をつけておりますけれども、このネーミングとしては、これでよろしいかと思っているんですけども、委員の皆様、ご意見をいただきたいと思います。すみません、よろしくお願いします。

(議長)

はい、わかりました。

ここでは、皆さん、ぜひご認識いただきたいのは、様々な判断の会がありますので、18ページにいきますと、ここのこの場は協議会ですので、青色の上の段になるわけですけど、ここにある通り諮問機関という形になりまして、様々な動きについて審議して、ある意味お墨付きを与えるような場になってくるのかな、と思います。ということはどうかというと、その下、実行部隊でありますまちなか魅力委員会が、市民の方中心に組織されている。さらに、その方々がより動きやすいように、サポートしていくことがこの機関の重要な役割かなと思っていますので、まずそういった場であるということを、認識していただければ良いのかなと思っています。

あえて確認ですけど、今ご説明いただいたのはたたき台について、この場であったり、これから開かれます出前ワークショップ、拡大ワークショップとか、その中での議論を含めて、もっとブラッシュアップじゃないですけど、追加があたりしていく。その上で、最終的なランドデザイン、仮称がとれたものを作っていく。それが3月までの一つの目標ということですよ。ですから、まさしく叩いていただいて、今後皆さんにご意見いただければと思っています。そしてその1つが先ほどの名称のところかと思っています。

じゃあ皆さん、ご質問がないようですので、私が1つだけちょっと気になったところがございまして、12ページに4つのコンセプトがありまして。この4つのコンセプトはわかりますが、例えばその「やりがい」の部分が、仕事の部分をイメージされて「やりがい」と書かれています。まちにおける「やりがい」もしくは「生きがい」かもしれませんが、いわゆるボランティア（自由意志）な部分もこのまちづくりの活動であるとか、そういったものも含めて、仕事だけじゃない「やりがい」ってあるのかなと思います。もちろん働いてらっしゃらない方もまちの一員であると思いますので、この辺りをやっぱり仕事に限ったという経緯みたいなことがあればご紹介いただければと思います。よろしくお願いします。

(事務局)

先ほどのやりがいの創出というところで、仕事や雇用というところに特化しているのではないかというご意見ですけれども、実際このたたき台を作る上で、その議論はありました。例えば地域活動や生涯学習や、いわゆる生活する上で仕事、雇用、お店で稼ぐなどそういうことではないところの「やりがい」といったものもここに含まれるのではないかと、ということで、そのようなワードを入れたらどうかという議論も確かにあったんですね。議論の中で、まちづくりを進めていく中では、やはり経済性ということもきちんと位置付けて、お金が循環する、継続していくという仕組みづくりが大事なのではないかという思いが強くてこういう言葉のワードの選択に最後は落ち着いたところではあります。

先ほど言われたような仕事と雇用ではなく、地域づくりであったり、その土地での生きがいを感じられるまちづくりも当然必要ですけれども、例えばそれは「わくわく」に入るのではないかと、「かたる場」に入るのではないかと。そのような議論もありましたので、皆さんでイメージをしていただいて、最終的にランドデザインを描いていくときにはどういう位置付けで考えていったらいいかということを、議論していただいてもいいのかなと思います。

(議長)

はい、わかりました。そういった議論があったということがわかって、非常によかったです。とてもよくわかりました。そこも含めて市民の方との対話の中でブラッシュアップできるのかな、と思います。どうもありがとうございます。

その他そのようなことも含めてご質問があればよろしくお願いします。はいどうぞ。

(福富委員)

福富と申します。よろしくお願いいたします。

20ページ、スケジュールの中で拡大ワークショップ第1回、第2回という形で一応予定として含まれていたと思うんですけども。こういった内容されるのかとか、ある程度の方向性などが決まっていたら教えていただければと思います。よろしくお願いします。

(事務局)

ご質問ありがとうございます。一応、今考えているところですが、拡大ワークショップ第1回については、まず、玉名のまちなかのありたい姿とか、そういうことについてのお話を進めていきたいと考えています。

さらにそこから発展して、第2回目が、みんなでどういう活動につなげていこうかと話し合う場ということで、それぞれ内容について構成を変えてやっていきますので、できれば両方ともご参画いただければありがたいと思っていますので、できれば協議会の皆様につきましては、ご参加をお願いしたいと思っていますので、よろしくお願いします。

(議長)

はい、ありがとうございます。はい、ではこちらに。

(坂口委員)

県の玉名地域振興局の坂口です。よろしくお願いします。まず、まちなか魅力向上委員会ですけれども、今回エリアが6つございますが、エリアごとにあるものではなくて、一応全体を対象として、それが分科会に参加することによって、このエリアや機能を結ぶという形で考えてよろしいのか、ということが1点です。

それと、2点目は資料の24ページ、跡地活用の分科会が「10年後の姿を思い浮かべて」となっておりますが、今回のこのデザイン協議会は20年後の姿を目指す蔵原市長からありましたが、その10年、20年の使い分けというか、そのあたりを詳しく教えていただきたいと思います。

それと3点目、この協議会そのものについて、今回デザインと計画策定ということになりますが、最初の説明でございましたように、その後、ある程度中身が変わって5年後に見直していくという形で、協議会としては、人は変わってくる可能性はございますが、その20年後まで、続けていくという形で理解してよろしいですか。お示しいただきたいと思います。

(事務局)

ありがとうございます。

魅力向上委員会には、まず自由に皆様から、応募いただくという形をとっています。その中で、まちづくりについての未来について話し合うという形で進めておりますけれども、ゆくゆくは、やはりエリアで、より特化した話をするということが必要な、と思っています。こちらについてはエリアだけでなく、例えばマーケティングの話であるとか、地域交流の話であるとか、集まった皆様、それぞれにやはり想いや目標というのがあると思います。それぞれ

に特化した話というのが、今後必要になってくるかと思しますので、分科会という形で組織のメンバーを分けて、より特化した話を進めるということで考えていますけども、組織全体としては、魅力向上委員会として活動を進めていきたいと考えています。

次の１０年後２０年後の使い分けについてなんですが、グランドデザイン全体につきましては、やはり遠い将来まで含めたところでの考えということで、２０年後と考えております。それと併せまして、プロジェクト、事業として進める場合には、やはり５年区切り、１０年区切りという近い将来についての議論を進める必要があるところもございます。ひとつ大きな構想としましては２０年後の未来ということを思い描きながら、今後１０年間でいうことってどうということだろう。そういうことも視野に入れながら、若干の使い分けがありますけれども、資料がうまくまとまっていないところもございますので、うまく伝えられていないところもあったかと思います。

協議会があと２０年後まで続くのかという話ですけども、基本的にプロジェクト自体が、まちづくり、にぎわいづくりということを目標に掲げております。そちらは、達成するビジョンになっておりますので、それを推進する重要な位置付けとして、こちらのプラットフォームを考えておりますので、皆様には、できれば長い付き合いという形で、ご参画いただきたいと考えております。以上です、よろしくお願いします。

（議長）

はい、よろしいですか。はい。ありがとうございます。その他よろしいですか。はい、どうぞ。

（大廣委員）

玉名町区長会長の大廣と申します。

さきほど説明があった、２５ページのまちなか出前ワークショップへの参加ということなんですけど、私は区長会長をしていて区の公民館などでよく会合をしますが、そのような場合にも来られているということでしょうか。区長の方で、もしやりたいという要望があれば、そういう段取りもしていただけるのかなと。２０年後のことを想定して、それぞれ考えがあると思いますので、やっぱり地元の方が一番にやりたい。特にまちなかは、全国的にですけど空き家が多い。あの辺りをまたワクワクするためには、これがネックになるだろうし、やっぱり地元の方の意見をもっと尊重しながらしないと、上だけで決めてもらっても、途中で難色を示すようになった場合、基本的に地元のいろんな意見を活用していただければと。

（事務局）

ありがとうございます。大変ありがたい言葉です。一応、この後３番目で、出前ワークショップについては詳しくご説明を差し上げようかと思っているところなんですけど。今、大廣区長がおっしゃったような会議にはぜひ参加させてください。申し込みは一応、第１回は８月３０日までを応募期間、９月３０日まで実施としているんですけど、これは期間を空けずに再開しようと考えております。すごくいい計画だな、と行政内部でも話をしているところです。出前ワークショップの方については、３番で詳しくご説明させていただきたいと思しますのでよろしくお願いします。

〔まちなか魅力向上委員会・まちなか出前ワークショップについて〕

（議長）

はい。ありがとうございました。その他はいかがでしょう。

後程、意見交換はありますので、そちらの方でも、ご意見ご質問いただければと思います。

はい。ではいくつかまだご報告がございますので、そちらに移って参りたいと思います。2番目が、今出てきましたまちなか魅力向上委員会と、それから今のご質問にもありました出前ワークショップについてということで、2件合わせてご説明をよろしく願いいたします。

（事務局）

改めましてお世話になります。都市整備課の森田と申します。

次第にあります報告（１）の②③のまちなか魅力向上委員会とまちなか出前ワークショップについて、併せて、ご説明をさせていただきます。先ほどもご意見いくつかいただいておりますけれども、資料としては資料５のチラシがあるページ。こちらが魅力向上委員会です。「仮称」としておりますけれども、この魅力向上委員会は、市が設置して市が運営して市がやりますよという会議ではなくて、今、実際まちづくり活動だったり、商店街やご自分の事業も含めて、まちで活動されていらっしゃる方、あるいは今後まちなかでこういう活動や事業をしてみたいと思っていいらっしゃる方に集まっていただいて、そのメンバーの中で、一緒に考えていく会議ということで位置付けています。

ですので、この名称自体も委員の皆さんで考えているので、一旦「仮称」とさせていただいております。募集は、一旦６月２６日で締め切って、その時点で１３名の方に申し込みいただきまして、実は第１回目を８月６日に実施いたしました。委員をお申し込みいただいたこの１３名が固定ということではなく、実際そういった活動を知って、関わりたいという方をどんどん増やしていきたいという思いもありましたので、継続して募集をしております。

そのチラシの裏面に、今、申し込みいただいております１３名の方の名簿を載せております。非常に幅広い分野の方にご参画いただいております。大学の先生やまちの中で事業展開をされていらっしゃる方、商店会の方、あと子育ての活動をされていらっしゃる方など、ご参加いただけてます。

８月６日の第１回については、顔合わせと、今どんな活動をしているか、どんなことをしていきたいのかという、自己紹介がてらそういった意見交換と、今まで思っていちゃったことや、このプロジェクトにどういうことを期待しているかなど自由に話をさせていただきました。なかなか今日のような会議だった感じでは意見を出しにくいということで、文化センターの和室を借りまして、いろいろお菓子とかをつまみながら、気楽にお話ができるような環境を作って一緒に話をしたところです。

魅力向上委員会から、このデザイン協議会に３名ご出席いただいております。村田明彦さん、崎山由美さん、福富雅仁さん、ですね。この３名の方にデザイン協議会と魅力向上委員会のつなぎ役になっていただけたらと思っています。

この魅力向上委員会、どういったことを目的・目標にいくとか、その会議の進め方をどうしていこうか、どうやったらうまく回っていくか、自分たちのやりたいことなどをどうしたらできるか等を、実際に一緒に考えながら作っていこうと思っています。最初の会議でいただいた意見でも、行政と市民が協働で取り組むとは、具体的にどのように進めていくのかとか、行政

に本気で考えて欲しいんですよ、というようなご意見をいただきました。職員の方とも一緒にこの場で話していきたいというようなお声や、今までの一般的な計画で形式的にやってきたワークショップで変えられなかったものを変えていくようにみんなで考えていきたいというような意見などをいただきました。

これからこの魅力向上委員会を進めていく上で、会議の形態も、より広く市民の方に知ってもらうように、公の場所や市役所のロビーや外、そういう目に触れるところでやっていって、楽しいことをやっているということが伝わっていくようにしていきたいという声もいただきました。この魅力向上委員会、その実行部隊や、このグランドデザインについて提案するなど、いろいろ役割はあるんですが、これまで個人だったり、自分たちの団体だったり、あるいは自分たちの地域のことを考えているところから、やはりすこし広く、視点を持っていただける民間の方と、市民感覚を持った行政の職員が一緒に交わることで、まちが動いていくということができればいいなと思っています。

本日お集まりいただいたデザイン協議会の皆様にも、魅力向上委員会や、まちの中で動いていこうとしている人たちを応援していく気持ちで、このデザイン協議会に参加していただけたらありがたいと思います。次回の日程は、9月3日の19時から開催する予定ですので、またそちらホームページ等で、お知らせすると思いますので、ご興味がある方はお問い合わせいただけたらと思います。先ほど13名と申し上げましたが、実は昨日お1人、参画したいんだけどというご相談がありましたので、また随時仲間が増えていく予定ではあります。

続きまして、資料6ページ、今度は緑のチラシのご説明です。先ほどご質問がありました出前ワークショップの件になります。こちら実は5月から募集をしております、今月8月末までを第1弾の募集期間、9月30日を実施期間、ということで予定しております。こちらは、こういった会議体やさっきの魅力向上委員会とか、実際活動していらっしゃるということではない方たちも、このまちなかのことを少し考えていただくきっかけになっていただければということで開催しています。市役所から「ワークショップします。集まってください。」って言っても、そこに足を運ぶのは、結構ハードルが高いということもありますし、こういった会議の場で意見がなかなか言いにくいということもありますので、皆さんが普段集まっていらっしゃるフィールドの中に市役所職員が伺いますよということで、「出前」という名前にさせていただいて実施しています。

裏面のページめくっていただいたところに、実施状況を掲載しております。最初は肥後銀行で初めて実施したんですけども、やはり営業等でまちを回ってらっしゃって、私たちよりもまちのことを知ってらっしゃる部分もあったり、異動等もありますので、いろんな地域のことをご存知だったり、非常に活発な意見をいただきました。

また、玉名遺産を活かす会、玉名町校区まちづくり委員会は長年地域活動されてきた中で、入口のワークショップだったので、ちょっと物足りないなあ、という意見はありましたし、「こういうことを話したいんだ」という非常に前向きなご意見もいただきましたので、そういったことも踏まえて、今後考えていけたらと思います。

そして、九看大のリハビリテーション学科の1・2年生で実施させていただきましたが、若者ならではの意見もいただきました。やはり九看大生は、玉名市のまちなかをあまり知らないという方が結構いらっしゃって、それは現実として受け止めて。ただ、自分たちができるこ

とということでSNSを使った発信であるとか、そういうことは自分たちでできるんじゃないかというご意見もいただきました。

実は昨日、8月20日に妙法寺キッズサークルで、実際小学校1年生から中学生までのお子さんをメインにしたワークショップをさせていただきました。実は大人のワークショップよりも、より具体的で実行性のある意見が出て、非常に私たちも勉強させていただきました。

これからも予定しておりますし、高瀬商店会さんや、地域コミュニティAruさんというところからも申し込みをいただいております。先ほど大廣区長からご質問ありましたけれども、当然区長会や行政区、例えば春出1区でも結構です。団体としてではなくて、5人以上であれば応募できますので、個人のグループでも応募いただければこちらから足を運んでいきます。

開催の団体や内容は全部、庁内のプロジェクトチームや掲示板で職員全体にも流しております。関係のある部署が、自分たちも参加したいというような意見で、昨日のキッズサークルにも、子育て支援課と一緒に参加したりもしております。まちなかを考えるきっかけとして、こういった取り組みを活用していただければと思います。長くなりましたが、以上で報告を終わります。

(議長)

はい、ありがとうございます。ただいまご説明があったところですが、何かご質問・ご意見ありますでしょうか。また、まちなか魅力向上委員会の方から三人来られていますが、それでも結構ですが、何か雰囲気でもご報告いただけると…それでは村田さん。

(村田委員)

皆さんこんにち。はじめまして、村田と申します。今回からよろしくお願いいたします。

今日3人で伺っていますが、メンバーは私みたいな仕事をしている人間や、あとは主婦、多様な方で構成され、1回目は、会議っぽくなく割と好きなことをわいわい言うようなイメージで進めていただいたところです。

第1回目でしたので、我々もこれからどうなっちゃうのかなあという感じで、不安な状態というか、何をすればいいのとか、手探りの状態で話したところでした。ですので、今日はここに参加させていただいて、やりたい方向性などを少し勉強しながら、やりたいことを重ね合わせながら、いいお話ができていけばいいなと今日思っています。よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

(議長)

はい、どうもありがとうございます。ぜひよろしくお願いいたします。何か追加とかございませんか。

その他ご質問・ご意見いかがでしょうか。

非常に良いことをやっていると思うんですね。特にこの2つに関して、そして実際に動きもあって。これ、募集のための広報ではなくて、やりましたよという広報のほうが重要ではないかと思うんですけど。そのあたりはやる予定とかあるんですか。

(事務局)

はい。魅力向上委員会の方は、まだ委員の皆さんにどういうふうに進めていって、どういうふうに発信していくかというのがきちんとお話できてないんですが、ひとつは今このプロジェクト全体で業務委託をしているんですけども、「note」という機能を使って、いろいろ発信

ができるようにする仕組みを考えています。そこを委員の皆さんとどういう発信をしていくかというのを調整しながら考えていきます。

出前ワークショップについては、これからこの予定で開催しますよということと併せて、出た意見として、最後に取りまとめたワークシートをホームページで公開させていただいています。実施の前の段階で、ご了解いただいた団体にのみにはなりますが、ホームページでどういった意見が出たというのは掲載をしているところです。

(議長)

はい。ありがとうございます。多分活動のアーカイブ、記録という意味合いでは今のとても重要だと思うし、やるべきだと思うんですけど。一方で、やっぱりこのまちなか未来プロジェクト。正直わかりにくい。どうなっちゃうんだろうという雰囲気は、もう我々だけじゃなく市民の皆さんも当然そうですし、もっと広げていく必要があるので、私は先ほど九看大の学生さんがSNSとかという話ですけど、そういったメンバー自身が勝手になんか広めていく流れ。それからやっぱりSNSの力は強いと思うので、特に魅力向上委員会の方では、委員会の中で議論していただいてやっていただきたいと思います。誰か担当がやるとしんどいんですよね。でも気づいた人が気付いた時にやるのが一番楽で継続性があると思うので、そういうことと併せてやると、そういうところもご検討いただけるといいのかなと思います。

はい、ありがとうございます。その他いかがでしょうか。出前ワークショップはとてもいいことだと思いますので、皆さん何かあれば、ぜひリクエストしていただければいいんじゃないかなと思いました。

あ、そう。九看大の時はいかがだったんですか。どんな感じだったんですか。

(中野副会長)

地元にある大学として、学生を地域の方という声が届いていながらも、なかなか実際にまちの中で活躍するというような学生が少ないという現状がございまして。今回こういうプラットフォームというか、機会をいただいて、チャレンジしてみたいということで応募させていただきました。最初は大きな内部組織を動かすことは簡単じゃなかったんで、私の所属が、特に1、2年生。3年生になると実習等あって難しいということで、限定的ではあるんですけど、させていただくという形をとりました。参加を半強制的にさせていただいたので、一応任意という形はとったんですけど、できるだけ参加してくださいというアナウンスのもとでやりました。参加すると、やはりいろんな意見交換を、日頃授業中はあまりしゃべらないというような学生さんでも、自分の意見をしっかり言ってくれたりだとか、そういう雰囲気を今回コーディネートしていただいた市職員の皆さんが作ってくださいましたので、そういう環境で若い方の意見をどんどん出していくという場を作り続けていくのがいいかなと私の視点では感じるころでした。以上です。

(議長)

はい、ありがとうございました。ぜひ地元にある大学として学生さんも頑張っていたきたいな、と思った次第です。

もちろん県立大学も、特に駅前とかチョン先生を中心に関わらせていただいていますけど、やっぱり県大よりも地元の大学の方が、日常になるかなと。もちろん我々も協力させていただきますけど、ぜひご検討いただければと思います。その他よろしいでしょうか。

(崎山委員)

崎山といいます。よろしくお願いします。

私自身は子供が小学生から高校生まで4人いる保護者として、お聞きしていいなあと思ったのは、実際、うちは子どもが工業高校の2年生で、よく先生達がほとんど工業高校の9割は、就職ということで聞いている。県内の就職率の方もすごく高まっている状況になっているようです。一応PTAでも本部をさせていただいているんですけど、そうなってくると、じゃあもっと玉名に残っているかっていうと、正直玉名から出ています。高校生のほとんど。玉名にもっと魅力を確立して伸ばしていかないと、高校生も出ていている状況なので、息子にも残って欲しいんですけど、どうしても給料の賃金面や魅力的なものがやっぱりない。休日でも外に出ていくような状況なので、商業施設とかもちろんそうなんですけど、高校生にも出前ワークショップ等を実施して、小さいうちからこういうことをしていかないと。話を何となく聞いて、何となく終わってしまうので。こういうワークショップって正直ピンと来ないかもしれないんですけど、もしよかったら小学校、中学校、もちろん高校の先生たちにご協力いただいて、進路に迷う時がやっぱりあると思うので、よかったら、早め早めにそういった出前ワークショップを身近なものにさせていただけたらすごくいいかなあと思います。

そうすることで子供たちが、地元の高校、地元の大学にも行くと思うんですけど、どうしても今、市外に出ている状況なので、なかなか地元に残ってない大学生、高校生が多い状況です。もしよかったらもっと身近に、学校の協力を得てでしょうが、出前ワークショップをしていただいて、玉名に残るような子供たちに、もっと「玉名っていいよ」って言ってもらうようなものを作っていただけたらと思うので、ぜひ、ワークショップをもっと推進していただけるようにお願いします。以上です。

(議長)

はい。ありがとうございます。先ほどのご説明でワークショップは入口なので、そのあと高校生、小中学校、もちろん大学生がいろんなプロジェクトに関わってくると、よりのいいかなと。愛着とか認識とかあると思うんですけど、やっぱり体を動かすことによってそういったことができていくといいのかなと、思いました。はい。ありがとうございました。

今、高校という話がありましたけども、上妻先生とか何かありますか。すいません、急に。

(上妻委員)

玉名女子高校の上妻です。教育関係ということで一言述べます。

私は、一番興味があったのはターゲットが若者に絞ってあるということだったので、このプロジェクトを大きなムーブメントとか、実際にでき上がってからの令和7年度からの動きに、高校生や中学生は、どう関わるができますということは興味がありました。説明を受けたら、ちゃんとこういう段階で、玉名女子高校もぜひお願いしたいと思います。

それは1つには、学校関係者はどうしても担い手の育成という発想があるので、ちょうど小学生、高校生がそういう、玉名駅前にこれがあったらいいよ、あれがあったらいいよって言って、それが実現可能か不可能かまったく関係なくて。そういう経験をしたということが、みんな10年後20年後に。玉名を今担ってらっしゃるのは、ここにいるメンバーなんですけど、10年後20年後に担ってるのは私たちではなくて、彼女たち彼らたちだということです。やっぱり学校の先生ってそう考えるんですね。担い手をどう育成するか、そのためには、幼いときに種をまいた

り経験をさせるというのが大事なので、突拍子もないことをこの子たちは言うなっていうのも、それが問題なのではなく、そういう経験をさせていただきたい、ということはいつも思っております。だから、この案を令和6年度末にはまとめるので、なかなか実現しないと思いますが、玉名女子高校にも来ていただき、意見を聞いてもらいたいと思います。

そして、とても興味があったのは、ちょっと先の話になるんですが、ハード面で何かを作る、グランドデザインの中にはもちろん施設設備の話があった時に、どうしても私たち大人は、古い。固い。ネガティブなこと言う。

一例を言いますと、すみません、私は玉名市民じゃなくて熊本市民なんですが、辛島公園によく一時期、スケートボードを少年たちがしていたんです。そしたら、妻が「あぶなかー」って言うんですね。そしたらもちろんスケートボード禁止ってなりました。で、熊本市役所の前のガラス張りのところに夜になると、ダンスをする少年少女がいっぱいいるんですよ。それで、私はいいなと思ったの。私たちの不良のイメージなんてコソコソどこかでシンナー吸うそういうイメージ。ところがこの子たちは健康的だなって、表通りで自分たちの姿がガラスに映るらしいんですよ。そうして一生懸命ダンスを踊っているんですよ。そしたらやっぱり古い大人は「はよ帰らんな、いつまでんこがん夜中におると不良のごたる」って言うんですね。私たち世代の発想だと思うんですが、例えば、ハードを作るときに、玉名市にスケートボード場を作りませんかっっていうと、みんな反対すると思うんですね。どんだけお金かかると思うんだとか。あるいは、怪我したらどうするんだっていうネガティブな意見が次から次に出て、できないと思うんです。

例えば家でオリンピックのスケートボードを見たときに、これはスポーツなのか。柔道はスポーツでかっこいいと言うんですけど。スケートボードはスポーツかなと。ブレイキングダンスを一生懸命踊っているけど、これオリンピック種目かなってやっぱり妻も言うんですね。でも、僕は今の若者がどういうものを求めているかという。だから、柔道を一生懸命やっている人のために、武道場という施設設備ができるのならば、ブレイキングというダンスは、割と民間のダンス教室がいっぱいありますけど、スケートボードを一生懸命必死になってやっている若者がいるならば、それを社会が練習の場をきちっと整備するというのは、玉名市が、ではないんですけど、日本がすればいいんじゃないかなと思う。何で剣道場を作って、スケートボード場は禁止禁止って。じゃあ子ども達はどこで練習しようかなあと思うんですが。まあどこかにあるんでしょう。

だから、玉名市のターゲットを若者に絞ってワクワクワクワクするっていう、本当に大人だけの発想じゃなく、若者は何をしたいのか。

玉名市の学んだ子たちが玉名市外に出ることは、止められないところもあるんですよ。ここではないどこかに目指すのが若者なので。その中でも、玉名市の方がおられて、東京に行ってみたいと思った人もいると思うんです。でも東京にない魅力が玉名にはあるよね、と思うぐらいの感性を僕たちは育てていきたいし、例えばそういう面白いものがあつたらば、土日だけかもしれませんが、玉名にはスケートボード場があるという。500円払えばスケートボードができる公園があるよって言ったら、くるかもしれませんね。だから何か施設を作るときには大人の考えじゃなくても、素朴な小学生、中学生、高校生の考えを拾い上げるというぐらいの力量を持っとかないといけないなあと思っています。

(議長)

はい。どうもありがとうございました。本当おっしゃるとおりだと思います。はい、ありがとうございました。すいません、もうお一方、玉名高校の上村先生もいかがでしょう。何か一言あればと思うのですけど。

（上村委員代理：山下教頭）

すいません。代理で来ました教頭の山下と申します。よろしくお願いします。

壮大な計画に、私は初めて携わらせてもらったんですけども、今の上妻校長先生言われたことに共通するところがあるかと思うのですが。上村の立場としては玉名市内にある三校の公立高校代表という立場で参加させていただいておりますので、公立校三校の状況なんですけど、やはり以前と違いまして少子化に伴って、なかなか入学定員が満たされないという状況がどの学校も一番の課題です。それを言っても前向きになりませんので、なんとか今通ってきている生徒たちを、元気に育て、卒業させるということが私たちの使命と思っています。

であるには、どうしても県外の方に。大学まで県内だとしてもそれ以降は県外に出たりという生徒も、本校の生徒は多いかと思っています。ただ、例えば、熊本の県立大学、熊大とか、九看大とかに通う生徒たちもいますので、その生徒たちが熊本市内や近辺の福岡等、そこに就職した後に、やはり途中で帰ってきたいという生徒もいるんですね。やっぱり都会の生活は合わないとかですね。玉名だけでなく、私も天草や水俣やいろんなところに勤めてきましたけども、そういう地域も同じような課題を抱えていらっしゃると思います。なかなか卒業生が戻ってこない。ただ、中にはやっぱり都会の生活に疲れて帰ってくる人たちもいます。そういう子たちが将来的に増えてくるかなと。そのためには、やっぱり玉名のまちが魅力的じゃないとなかなか戻ってこないのかなと思います。

ただ、教育的な立場でお話しさせていただきますと、このワクワク、パッと見ていたんですけども、文教エリアというところがあります。あそこに、全部の学校じゃありませんけど、本校も位置しております。そして、九看大がありまして、玉名工業、専大熊本はちょっと離れたところにありますけれども、大体この辺りが文教地域で駅からも近いので、こういう場所に、どんどん跡地も商業地もできますので、学生が集まるエリアができれば、そこでいろんなイベントが出来るのかなと感じています。また、もしよろしければ、学校というのはいろんな行事がありますので、その時にやっぱり今は車社会ですので、駐車場を文教エリア、もしくは近隣の幼稚園、保育園含めて、そういうところも学校関係の行事で使わせていただければ。そういう施設というかエリアがあると、非常に助かります。本校の体育祭では、約4千人から5千人ぐらいの方が来られて、一番の課題は駐車場。いくつかお借りはするんですけど、どうしても足りずに、いろいろご近所にご迷惑おかけすることもありますので、そういったところからも、感じたところですよ。すいません、ちょっと長くなりましたけど、今後ともよろしくお願いします。

（議長）

どうもありがとうございました。

今のお話たくさん、いろいろスケボーとかブレイキングダンスの話と同じものがあるのかなと思うんですけど、駐車場だとか場所を作るというのも確かに一つの選択肢だと思ったり、熊本市役所の前みたいに、ある一定のルールを守ればここでやっていいよ。というのを地域みんなで話し合って決めて、そこでやっていくっていうやり方もあると思うんですよね。駐車場の問

題も同じで、多分、観光客のために作る。やはり5千人来るってすごい一大イベントですので、やっぱ地域を挙げて、じゃあ私のお店を提供します、という雰囲気地域で作っていくっていう等、そういうお困りごとをこういった取り組みを通じて解決して、良い魅力につながっていくようなことが、目指すべき姿ではないかなと思います。今のお二人のお話がとても繋がるというお話をいただいたのかなというふうに思いました。

〔玉名市まちなか未来プロジェクト賑わいのまちづくり地域交流活性化支援業務について〕

（議長）

まだ、議題がございますので次に進めさせていただきます。報告ということで、4番目に、まちなか未来プロジェクトの賑わいのまちづくり地域交流活性化支援業務というものがありまして、そちらについて説明をよろしく願いいたします。

（事務局）

こんにちは。玉名市都市整備課古城と申します。私からは、玉名市まちなか未来プロジェクト賑わいのまちづくり地域交流活性化支援業務についてご説明いたします。資料7をご覧ください。

事業の趣旨として、今後の官民連携によるまちづくりを円滑に進めるため、市中心部の公共空間を利用した社会実験や、まちづくりの機運の醸成を図り、まちなかのさらなる活性化を促進する事業として、昨年度から行っており、熊本県の地域づくり夢チャレンジ推進補助金（夢チャレ）を活用しています。

業務内容として、市民参加によるDIYワークショップの実施や、公共空間を利用した市民イベントへの備品貸し出しなどの支援、その際のアンケート調査の実施、またアドバイザー講演等の写真や動画を撮影し、SNSなどで発信するような、まちなか魅力発信プロモーション。あと、広報チラシデザイン制作となります。

今年度は、事業者として、アイデアパートナーズ株式会社と今年の6月25日に契約締結をしており、今週、昨年度から購入していた備品等を収納する倉庫を市役所の敷地内に設置しました。アドバイザー講演など、業務内容について決定した日程としましては、資料の下の部分にあります。10月19日にまちづくり講演会、講師に青木純氏をお招きして講演会をさせていただきます。

続きまして11月30日、12月1日と屋台づくりワークショップ、1日目は屋台を制作して、2日目にそれを利用したマルシェを行う予定です。その後、また12月13日から15日の、3日間連続で、フューチャーデザインスクールというものを開催します。玉名フューチャーデザインスクールについては、下の方に説明が書いてありますが、3日間かけて、公共空間や空き家など、まだ対象の物件は決まっていますが、これから活用の可能性を秘めているまちの資源に対して、提案を練り上げてもらうスクール形式の市民参加型企画となっており、最終日には公開プレゼンを予定しております。その内容を踏まえて、年明けた1月19日にまちづくり講演会、トークセッションスタイルで行うことになります。その他、詳細やイベント支援等はまた決まり次第、広報等でお知らせすることになっております。

昨年度、この事業のまちづくりセミナーとワークショップが計5回行われていて、実際その現場でまちづくりをされている方の講演会や、DIYワークショップでキオスクの跡地にロフ

トを作ったり、夜間景観ということではちょうちん、ランタンを並べてみたりだとか、そういういろんな体験ができて、自分個人の感想としてはとても勉強になったな、というところがありますので、今年度ももし、この中でもご興味があられる方は、参加していただければと思います。私からは以上です。

（議長）

はいどうもありがとうございます。ご質問等ありますでしょうか。

これ県の夢チャレということなんですけど、来年度同じようなことが出来そうなんですか、予定をされている感じですか。

（事務局）

夢チャレにつきましては、熊本県の地域づくり夢チャレンジ推進事業ですね、7割の非常に手厚い支援を熊本県から行っていただいております。昨年度から始めまして、今年が2年目ということで、補助としては3年間活用できますということを聞いております。来年度についてはまた魅力向上委員会や市民の皆様と一緒に検討して、始めるかどうか検討したいと思っております。

（議長）

ありがとうございます。特に来年度以降、そういった具体的な動きが様々に生まれて、うまく生み出していかなきゃいけない。当然そのときに、やっぱりお金の面は必要になってくる。

それが県の事業を活用するのもかもしれないし、市としても予算を確保していただかないといけない部分もあるかと思うのですが、多分、継続して何か動きをスタートしていくということが重要かと思いますので。ぜひそういった面で、かつ、これから作っていくグランドデザインや、市民の方の議論と連携して繋がっていくといいなと思いました。

〔玉名市都市・地域交通総合戦略（玉名駅周辺）の策定について〕

（議長）

その他よろしいでしょうか。ではもう1個、最後になりますかね。都市地域交通総合戦略についてですね、こちらもご説明よろしく願いいたします。

（事務局）

事務局の中川でございます。資料の8⑤玉名市都市地域総合交通戦略（玉名駅周辺）の策定についてご説明をいたします。

まず、玉名市都市地域交通戦略については、玉名駅を中心とした地域の公共交通を含む、総合的な交通に関する基本計画を、国土交通省の事業であります、都市地域交通戦略事業、補助率が2分の1を活用し、策定するものです。まず、総合戦略の目的について、青で囲っておりますが、社会経済情勢の変化や集約型都市構造への再編に向けたまちづくりの取り組みとして、将来明らかにし、必要な都市交通、まちづくりの施策となる公共交通を含めた総合的な交通のあり方、人の目標を定めて多様な分野の関係者間の連携を一層強化するとともに、地方公共団体、交通事業者、警察、市民等関係者による、一致団結した取り組みが総合的に展開されるよう、いわば総力戦が求められていると思っております。

また、実施にあたっては、進捗や効果について管理評価しながら、必要に応じて戦略を見直し、目的の達成に向けて継続的に施策を展開することが重要でございます。このことから、関係者間の連携と役割分担による、推進体制、協議会によって計画策定や実証を行う体制を構築することを基本としており、本市では、まちなか未来プロジェクトを推進する全体構成が必要となる組織体制が条件を満たす、本協議会であります玉名市まちなか未来デザイン協議会にその検討、承認機関として位置付けて、交通戦略の自主管理、評価見直しなどを行い、推進することにしております。

概要としてその下にあります、本事業、都市機能・施設が集積する市中心市街地にあり、在来線玉名駅は1日約5000人が利用する県北最大の重要な交通拠点となっております。しかし、駅南北では道路網が分断、人や車の往来など利便性や回遊性において不十分でございます。このため、コンパクトプラスネットワーク、右下に朱書きで書いておりますけども、人口減少、高齢化が進む中、地域の活力を維持するとともに、医療福祉、商業と商業等の生活圏を確保して、高齢者市民が安心して暮らせるよう地域公共交通と連携し、コンパクトなまちづくりを進めるということでございますけども、これをテーマに、持続可能なまちづくりを実現するため、令和6年度から調査を行い、中心市街地の長期的な戦略目標を定め、持続的な施策の展開のため、玉名市都市地域交通戦略（玉名駅周辺）の策定を目指すものです。

最終的には今年度に策定するまちなかの全体構想、グランドデザインに基づき、歩行者、自転車交通、公共交通等のモード間の連携や、公共交通の利用促進を図るための交通結節点の改善など、総合的な交通行動の転換に結びつける取り組みと、まちなかのまちづくりを連携させて、魅力的な都市空間を創出していく戦略的な計画を策定いたします。

また今年度は、前倒しで玉名駅の南北を接道する幹線道路の平面交差、及び単独立体交差の比較検討及び予備設計。平面交差一案。下をくぐるアンダーパス一案。それから上を通る、跨る、オーバーパス二案により検討を行います。現在、平面測量及び比較検討業務について、8月1日に業者と契約を行うことができまして、9月から10月までに平面測量、立体交差も比較検討に入り、来年2月末に完了予定と考えております。

以上、玉名市都市地域総合交通戦略の策定について、簡単ではございますが、説明を終わります。

（議長）

はい。どうもありがとうございました。はい。ただいまの件についてご質問等ございますでしょうか。はいどうぞ。

（大廣委員）

はい、どうもご説明ありがとうございました。

私、区長会とは別に春出1区区長もしておりますけども、都市整備課から連絡がございまして、道路整備について、詳しく説明いただきました。地元は非常に期待している。特に南北の道がないということで、先ほど申しました利便性や回遊性がよくなると地元の方は期待を抱いています。これが、20年後のまちに実現すれば、これから玉名駅周辺の整備、また、駅通り周辺の活性化があって、いろいろ若者が集まってくるような施設ができればと、今後大いに期待しておりますのでよろしくお願いします。ありがとうございます。

（議長）

はい、ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

おっしゃった通り、この後どうつながるかというのが結構大きな問題になるかなと思います。それを具体化しようとしているということかなと思います。一方でこのまちなかということに関して言うと、多分、これが繋がることによって良い面と課題面と両方、当然予想されます。単純に交通量が増えるという面、でも利便性は上がりますよね。それで、まちなかにも来やすくなるはずですよ。ただその課題と、良い面をどううまく調整しながら、まちなかのにぎわいに広げていくのか。そういった議論をぜひこの場でして欲しいと思いますので、国がこういった事業で、地元において協議会を作らせて、お金をあげるから作って、作った後ちゃんと評価をなささいという知見がすごく多いんですね。もう正直、地方自治体は会議体だらけになっちゃってるんですよ。正直まちなかが関係するので、それに関しては「ここで議論しましょう、してください」というようなご提案があったので、それはとりあえず一体的なご意見はできるかと思います。いいことかなと思いますので、ぜひ前向きといいますか、よりでき上がった効果を話しながら、全体に広げていくためにはどうしたらいいかということを、皆さんからご意見いただければいいかなと思います。

何かその他いかがでしょうか。ご質問等あればと思うのですが。

最後に6番目が、報告の意見交換ということで時間を取っていただいております。実はかなりすでにこの意見交換の場に含まれるようなご意見をたくさんいただいております。で、もう10分間ほどしかございませんが、意見交換に移っていきたいと思いますが、まず事務局の方から説明をよろしくをお願いします。

【意見交換】

（事務局）

はい、時間が押しておりますけどすみません。意見交換につきましては、これからのグランドデザインを策定に向けて、まちなかプラットフォームのまちなか魅力向上委員会で、グランドデザイン原案とまちなか出前ワークショップで出た意見をもとに、素案の検討に入る予定であります。

途中、ワークショップを2回、9月28日と10月27日に行って、素案が完成する見込みとなっておりますが、素案検討時に将来像や根幹、柱となるものをある程度固めておかないと、今後、市民との対話・議論が停滞する場合がありますので、現在市役所庁内のプロジェクトチームで作成しております原案、別添資料のA3横2つ折りの資料ですけども。またこの対象エリア、基本方針など、委員の皆様にご説明し、確認を行いたいと思います。では、表題のまちなかグランドデザイン原案たたき台1ページにある、まちなかが目指すまちづくりからご説明したいと思います。

まちづくりのイメージを共有しやすいようにキャッチコピーを定めております。キャッチコピーはWAKU×ワク×湧く～わくわくが湧くまちづくり～です。これは温泉のように玉名市中にわくわくが湧き上がるようなまちづくりを行うことをイメージして作ったもので、市民一人一人のチャレンジ精神を応援し、やりたいことをわくわくしながら、日々の生活を暮らせるようにという願いが込められております。

次に、その下に玉名のまちなかが目指す4つのコンセプトがありますが、より戦略的なまちづくりを行うため、まちづくりのメインターゲットと、より効率的、効果的なまちづくりの施

策について検討を行って参りました。中心にある緑色の絵になりますが、そのメインターゲットには、子供や学生、若者、さらには年齢を問わず、これから玉名を作り、担う人たちを主役に、「玉名の未来を担う人」と設定をしております。

そしてその周りに様々な目指すコンセプトとして、ここちよさの創出、ワクワクの創出、かたる場の創出、やりがいの創出という4つのコンセプトを掲げ、それらをイメージして、模式化したもので、色はしょうぶの花をイメージして紫にしております。

次に2ページ目広げていただいて、A3に広がる市中心部の地図です。こちらは玉名のまちなかを6つのエリア、玉名駅、駅通り、高瀬、温泉・蛇ヶ谷、文教、新玉名駅エリアにゾーニング、分けけた地図に、各エリアのまちづくりの将来像や必要な機能など、見た人が直感的にイメージしやすく、わくわくするようなイメージをし、作成をしております。また公的用地がある文教エリア。左の緑のところにあります、旧中央病院跡地。また、右下高瀬エリアにある旧庁舎跡地、旧商業施設、マルショク跡地には、行政が考える活用案の第1候補を掲載をしております。

例えば、旧中央病院跡地周辺の活用例には図書館、公民館とその他多くの機能を備えた複合施設。そして右下の旧庁舎跡地周辺の活用例には、公立保育所、第一保育所と子育て、防災などの機能を備えた複合施設を示しているところです。

最後に裏面の3ページです。エリアの将来像に必要な機能と取り組み例を記載しております。6つのエリアの特色を生かしながら、連携したまちづくりを行うことを目標に、各エリアのイメージや目指すべき将来像、それらを実現するために必要な機能と取り組み例を拠点ごとに示したものでございます。

例えば、左上の玉名駅エリアは、パークアンドライドの拠点ですね。パークアンドライドは直訳すると「駐車して乗車する」となりますが、自宅から自家用車で最寄りの駅へまた停留場まで行き、駐車場に駐車後、バスや鉄道など、公共機関を利用して都心部など目的地に向かうこととございます。取り組み例では、駐車場を駐輪場、駅舎、駅前広場、駅を縦貫する幹線道路の整備、待ち時間を楽しく過ごせる場所や、お店の整備などを掲げております。

その他5つの拠点にも同じように示しておりますけども、これについては割愛いたします。後程ご覧いただきたいと思えます。

ただいま説明していただいた通り、1ページ目が目指すまちづくりのキャッチコピーであるわくわくわく、そして玉名が目指す4つのコンセプトとメインターゲット。最後にA3の地図、中心部のエリアについて、委員の皆様について、まちなかのまちづくりを思い浮かべていただき、方向性として、大きな差異がなければこの原案を基本に、次の段階に進めてよいか確認をさせていただきます。

(議長)

はい。どうもありがとうございました。

ちょっと冒頭の方でこれに突っ込んだ話をしてしまった部分があつてすみません、時間が無くなってしまうかもしれませんが、これについてご意見があれば、ご質問あればと思うんですけども、いかがでしょうか。

これを基に、最後、次の段階っていうのは、冒頭の説明でご質問させていただいたように、これがどんどん変化していくことを前提に住民のかたとのワークショップに進んでいいかという、そういう意味合いですか。

(事務局)

はい、その通りでございます。

(議長)

はい、で、冒頭やりがいについてご質問させていただいたとおり、これは多分すごく時間をかけて、市役所の職員チームを中心に議論をされたと思うんですよね。住民の方に説明なりワークショップをする際に、結果だけ説明されてもやっぱり「はい、いいです、悪いです」としか意見言いようがないんですよね。ただ、せっかく1年間かけて綿密に議論されてきたなら、先ほどその雇用についてだけでなくどうしようかという議論がありましたというご説明があったので、それで結構すごく理解できたんですね。そう言った市役所職員のプロジェクトチームの中での議論をご紹介いただきながら、ワークショップの場に望んでいただけると、よりいい意見交換になるんじゃないかと思いますし、去年1年間が、より生きてくると思います。ぜひ、そこを工夫していただきたいと思います。

はい、何か他にもご質問とかご意見、なにかこの辺もう少し加えたらとかあれば。あ、どうぞ。はい。

(大草委員)

すいません、産交バス玉名営業所から来ました大草と言います。よろしくお願いします。

うちはバス屋なのですが、実際私の実家が、玉名の青野にあります。いろんな施設を固めて判断されておりますけれども、今八嘉地区は、バスはもうなくなりましたものですから、タクシーに頼らざるを得ない。我々の周辺も空き家、この前も隣では一人で亡くなられておられたというところもありました。ですので、唯一乗り合いタクシーが公共の交通機関になりますけど、例えば玉名まで出ていく時に、買い物とか、そういうところを終点に考えていただければなあと思います。今、荒尾地区では、必ずグリーンランドを集中的に乗り合いは出ています。そのために、お年寄りが非常に買い物だったり、交流の場だったり、立ち寄られています。玉名もそういうところがあればなと考えておりまして。実際うちのおやじも高齢なものですから、買い物とか、例えば玉名駅とか市役所とか、中町もわかるんですけど、すぐ近くに大きな商業施設があれば、買い物できるゆめタウンみたいな総合的なショッピングセンターに出店をしていただければという思いがあります。今、こちらに書いてある方もほとんどお年寄りに特化した施設というものが文字的になかったものですから、年寄りとまちと仲を結ぶ、何かそういう拠点があればな、ということでちょっと思いました。

(議長)

はい、どうもありがとうございました。交通方面ですね。そのほかいかがでしょうか。

あの、今お聞きして思ったのは、今エリアを中心にだいたいまとめられてるんですけど、先ほども話がありました、広報の話だとか、今の交通の話とか、なにか全体にあたるテーマってきっとあると思うんです。そういったことも、どこかにきっと加えてあるかと思うんですが、ちゃんと議論して加えていく必要があるのかと思いました。全体をつなげる俯瞰的な、そういうものも必要かと思いました。

(坂口委員)

今先生が言われていることに関連することになります。6つのエリアがそれぞれ独立して分かれているような感じがして、その連携というか、非常に大事になってくると思うのです

が。そういったものの視点で先生が言われている、公共交通。まずバスであったりタクシーであったり、そういったものの連携がどうかという視点から、もう少しぶれているかなというのが一つ。

それと、この中心部から、ここの成功したもの（賑わい）が外（の地区）にしみ出すような形というところが見せられたらいいのかなと。そういったことで、交通関係でしみ出しているところでいくと、先ほど説明があった玉名駅のところの交差の道路というのは、そこは多分中心部のやつを外にしみ出していくために役に立ってくるのかと思いますし、そういった視点を加えていくと、より良くなると思います。

（議長）

はい、ありがとうございます。

（村田委員）

すいません、時間が過ぎているんですけど、先ほど言われた柴田先生の、作っていった経緯に関してなんですが、これよく見ていくと、最初はやりたいことが見つかるとか、やりたいが繋がっていくとか、わくわくする新しい玉名を一緒に作りましょうというのがあって、その下にターゲットが未来を担う人たちになっています。このグランドデザイン自体がすごく内向きというか、中に対してデザインされているような感じを受けるし、ターゲットも玉名の若い人ということなので、そういう若い人を元気づけるようなイメージで作っていきましょうというような形で受けとれますが、各エリアになっていくと、急に観光を楽しむとか外から人を呼び込むとかいう言葉が入ってくるんですよね。よくよく読んでいくと結局、どっち向けに作っているのかなあとと思います。最初は、玉名の人たちを元気にしていって、笑顔が拡散して魅力を作っていくような施策かなと思うんですけど、やっぱり結局、観光を楽しむとか。

これは行政として作るときに、そういう部分もないといけないかもしれないんですけども、やっぱりその辺のしみ出すような、作った経緯というか、その辺も説明しながら、この中を言っただけだと、本当に私たちはこういうことを考えてるんだよねっていうのがもう少し伝わってくるかなあとと思うので。今後その辺のところもあわせて一緒にお話していただくと、本音というが、その辺のことを感じてるかなと思いましたので、ぜひお願いしたいなと思います。

（議長）

はい、ありがとうございます。実はデザイン会議というやり方なんですね。実はこのやり方が、全国的に徐々にいろんなところが取り組み始めてきています。昨日私、人吉で参加して参りまして、そちらも復興を同じような形で行政だけじゃなく、市民と一緒にやっていこうということで、そのデザイン会議というやり方を始めたところが人吉なんですね。

玉名の特徴はやっぱり市役所の若手の方がこれを作っているということが、ある意味特徴だし、これを叩ける状況を市民側が作っていただいでですね。だからこれを活かしていくっていうのはとても重要かと思いますので、ここにいらっしゃる皆さんが、ぜひそのあたりのつなぎ役になっていただいてればと。特に3人かと思いますが。その時に、今、村田さんがおっしゃったような本当に、本音の部分。市役所の若手の方が、本音で本当どう考えたのかという部分を腹を割っていかないと、進出的な意見交換が出てこないかなと。じゃないと従来通り「市役所の案です、いいですか」みたいな形になって。それは目指してないと思うんですね。そこ

は本当重要と思いますし、私も皆さんには、その橋渡しをしていただけるといいと思います。本当にそんなことをちょっとお聞きしながら思いました。

はい、そのほかいかがでしょうか。ちょっと時間が過ぎてますが。あ、はい、どうぞ。

(福富委員)

はい、たびたびすみません、福富です。

この間、あちら（魅力向上委員会）の会議の方でお話したんですけれども、エリア分けについてもですね。これは再度検討が必要なんじゃないかと若干思うところがあります。これは今後、委員会の方でもいろいろ話をしていきたいなと思っているんですけど。特に、地域住民の方及びいろんな方の意見をもっと揉みこみをしていかないと、せっかく市役所の若手の方から作っていただいているので。柴田先生がおっしゃったようにたたき台ができておりますので。これをさらに叩けるような状況、また、いろんな人の意見を聞けるような状況というのは今後、委員会の方もまた増やしていけたらなと思っています。

特にすいません、1個1個話をしていくと、多分すごく長くなってしまいますので、そこはまた委員会でもいろいろお話しさせていただきたいと思います。

で、改めて先ほどから話がありますように、子供たち、5年後10年後20年後、確かにビジョンっていうのはどんどん変わっていくものですし、まず中期ビジョン、最終的な長期ビジョンがいずれ変わっても全然いいかなと先ほどお話があったときに思ってたものですから、また我々もバトンタッチをしながら、また、区長さんたちのご高齢者の方々が、今、区長会がなぜやっている。ボランティアでやっているのかっていうのは、やっぱり地域を良くするためと、子供たちに次を繋げていきたいからが、一番だと思いますので、そこは先ほどおっしゃったように我々世代が引き継いで、そしてそれを次の世代につなげられるような、市役所の職員さん方も、今からやっぱり新しいつながりがどんどん出てくると思いますので、それが課を超えた事務局の一番の意味合いだと思いますので、そこを忘れないように、やっていきたいと思います。今日、いろんな皆さんいらっしゃっていますので、ご協力をいただきながら進めていけたら。で、3月までにある程度の指針が、3月でできたらと。ある程度指針は変わってもしようがないと思います。ただ、委員でフレキシブルにできるようになればいいのかなぁと思います。すみません、以上でございます。

(議長)

はい。ありがとうございます。おっしゃる通りだと思います。

今ちょっと、時間が切れてしまって、今、フォームを作っていたいたそうです。ご意見あればここにということですかね。

(事務局)

すみません、時間の関係で、自由な意見交換の時間がなかなか取れなくて申し訳なかったんですけども、貴重なご意見をいただくフォームをつくりましたので、今日、代理で来られている方もいらっしゃると思いますので、こちらで入れていただくか、私の名刺を受け付けに置いておりますので、メールでデータが欲しいということであれば、その方にご連絡いただければ、メールでリンクを送らせていただきます。よろしく願いいたします。

(議長)

はい。ということでちょっと時間を超過してしまいましたが、非常に活発な意見ありがとうございました。引き続き、よろしくお願いしたいと思います。それでは本日は、事務局の方にお返ししたいと思います。どうもありがとうございました。

【その他】

(司会)

はい、柴田会長におかれましては長時間にわたりまして議事進行を行っていただきまして、大変ありがとうございました。また中野会長ほか委員の皆様におかれましては、長時間にわたりご議論いただきまして誠にありがとうございました。次はその他になりますけれどもその点につきましては2点ほどございます。

拡大ワークショップが9月28日、10月27日に開催されますので、ご出席いただきますようお願いを申し上げます。また、次回会議はまだ確定はしていませんけれども、12月中と考えております。日程が近づいて参りましたらご連絡を差し上げたいと思います。連絡事項につきましては以上です。

【閉会】

さて、本日は委員の皆様大変お忙しい中に長時間にわたり、ご審議いただきまして誠にありがとうございました。今後、多様な人々が、玉名のポテンシャルを活かし、玉名の魅力や市民の活力を高めて、よりよい豊かなまちへの実現に向けて、官民連携で持続可能なまちづくりを行って参りますので、会長はじめ、委員の皆様におかれましては、よろしくお願いいたします。

では、これもちまして第1回玉名市まちなか未来デザイン協議会を閉会させていただきます。本日は誠にありがとうございました。